

平成29年度 地元報告会及び特別見学会の開催結果について【要旨】

日 時：平成30年3月24日（土）

地元報告会 13：00～13：55

特別見学会 14：00～15：20

場 所：地元報告会 多摩ニュータウン環境組合 管理棟 見学者説明室

特別見学会 見学者説明室→焼却棟→不燃・粗大ごみ処理棟→見学者説明室

出席者：阿部管理者、富澤事務局長、飯塚施設課長、星野総務課長（兼）出納課長、江尻
リサイクルセンター長、事務局4名

参加者：山王下自治会1名、中組自治会4名、唐木田自治会2名、落合自治連合会1名、
上小山田町内会1名 計9名（見学会は7名）

1 地元報告会の開催結果

次第1 平成29年度多摩清掃工場の運営について

(1) 主な事業の取り組み

ア 安全対策

- ・環境測定の実施、ISO14001 の適切な運用、鳥インフルエンザ発生時を想定した焼却試験の実施

イ たまかんニュース

- ・年2回 各107,400部発行、地域版年3回 各回約3,300世帯ポスティング

ウ 施設見学会の実施

- ・67団体 3,352人参加

エ 地元自治会等対象清掃施設見学会の実施

- ・実施日時：平成29年11月24日（金）
- ・実施場所：八王子市戸吹クリーンセンター
- ・参加者：地元自治会12名

オ 地域交流ふれあい事業の実施

- ・平成29年10月15日たまかんフェスタ（来場者 約1,250人）

カ クリーンアップ作戦

- ・清掃工場職員による工場周辺美化活動、唐木田クリーンアップ作戦2017

キ 鳥インフルエンザ発生時を想定した焼却試験の実施

- ・インフルエンザに罹患していない殺処分された鳥を使用し試験した結果、安全に適正な処理をすることができた。

ク ごみ搬入時間の変更について

- ・16時台の搬入台数を削減することができた。

(2) ごみ搬入量の推移

構成市の人口は増加しているが、ごみの搬入量については毎年減少している。

(3) 平成29年度 多摩清掃工場へのごみ搬入量

八王子市拡大区域、構成市応援処理分を含め平成30年2月末現在で

可燃ごみ52,776トン、不燃ごみ2,156トン粗大ごみ1,781トン、合計

56, 713トン

(4) 平成29年度 構成市間応援協定に基づく処理支援の受入れ状況

ア 八王子市からの「応援ごみ」受入れ状況

- ・受入期間 平成29年5月29日から平成29年7月7日まで
- ・受入理由 戸吹清掃工場の大規模改修工事のため
- ・搬入量と台数 1,579.13トン 935台

イ 町田市からの「応援ごみ」受入れ状況

- ・受入期間 平成29年10月9日から平成29年10月24日まで
- ・受入理由 町田市清掃工場の不燃粗大ごみ破碎設備交換修繕によるプラント停止のため
- ・搬入量と台数 173.93トン 306台

(5) 焼却炉運転日数

1炉運転 平成28年度331日、平成29年度311日(予定)、平成30年度326日(予測)

(6) 環境測定結果

法令による基準値以下に自主規制値を定め、ごみ処理を行い、平成29年度の測定結果はすべて自主規制値以下で安定的な運転を行うことができた。

(7) 中期経営計画「ビジョン2022」について

中期経営計画「ビジョン2022」を策定した。

経営方針を実現するために施設、組織の運営とあわせ、工場の適正な維持や安定稼働、次期処理施設の方針の検討など、対応すべき課題が多岐にわたることから、これらの課題、対応すべき事項を体系的に明らかにすることで、予算、人材を計画的かつ効果的に活用しながら課題の解決を目指すもの。

次第2 平成29年度リサイクルセンター運営状況について

開館日数・来館者数 279日 29,612人 多目的室利用実績 358回
リサイクル品販売実績 家具・木材等 6,963個 自転車・部品 120点
不用食器のリサイクル 持込者 543人

次第3 平成30年度予算概要について

予算規模、歳入・歳出それぞれ16億516万4千円
歳入・歳出予算の主なものについて説明。

次第4 平成30年度の事業予定について

(1) 構成市間のごみ応援受け入れの予定

八王子市から可燃ごみ約5,315トン、不燃ごみ約90トン、粗大ごみ約45トン
町田市から不燃ごみ約300トンを受入れ予定

(2) 工事の予定

- ・ 不燃・粗大ごみ処理棟 分散型計算機制御システム更新工事

(3) 主なイベント

- ・ 地域交流事業 たまかんフェスタ 10月21日

- ・施設見学会 夏休み子ども清掃工場見学会・煙突登り 8月
- ・唐木田クリーンアップ作戦 年末の予定（日時未定）

次第5 その他

(1) 地元自治会等対象清掃施設見学会の実施について

- ・多摩清掃工場へのご理解を深めていただくために開催。
- ・平成30年度に日帰りでの他市の清掃施設見学会を予定。
- ・開催時期：秋頃（予定）、定員40名程度、対象自治会：町田市上小山田町内会山中地区、唐木田自治会、中組自治会、唐木田李久保自治会、ハイライズタウン鶴牧管理組合、ヒルサイドタウン鶴牧管理組合、ホームタウン鶴牧管理組合、エステート中沢管理組合、落合自治連合会

(2) 住民説明会の開催結果について

開催日：平成30年2月 7日（水）、2月10日（土）

参加者数：計17名

説明内容：これまでの説明経過、新たな処理区域、区域再編までのスケジュールについて説明

主な質疑やご意見：環境影響に関すること、収集区域選定（ごみ量確保）に関すること、広域化に関すること、地元との合意形成に関すること、次期処理施設に関すること、工場の運営に関すること、相互協力に関すること

次第6 質疑応答

質問1 応援処理が、今年1,579トンだったのが5,315トンと増えているのはなぜか。

回答1 工事に伴い八王子市戸吹清掃工場の停止する期間が長くなるからである。今年は停止期間が限られていたが、来年度は主要な部分も長期にわたり工事をするので停止期間が長くなる。

質問2 ごみの搬入量が4倍近くなるのに、予算の方で歳入予算、八王子市拡大区域ごみ処理費が（819万3千円増と）がさほど増えていないのはなぜか。

回答2 拡大区域ごみ処理費は、八王子市との協定により搬入されるごみ処理費で、質問のあった戸吹清掃工場の休止に伴う応援ごみの処理費は「7諸収入」の中の他の項目で計上している。予算額としては、諸収入が、他の項目もあるので直接的ではないが、7.6%増という数字に影響していると見ることができる。

質問3 八王子市の拡大区域ごみ処理費が（819万3千円）増となっているのは、拡大区域が広がるわけではないのに、ごみ量が増えるということか。全体的にごみ量が減っているのにその地域だけが増えるというのはなぜか。

回答3 環境組合の八王子市拡大区域の処理費含む負担金が構成市からのごみの搬入量によって案分されるので八王子市が相対的に増える（ほかの構成市が相対的に減る）と金額が増えてしまうという仕組みになっている。ごみ量が増えたために処理費が増えたということではなく、相対的なごみ量の増減によるものである。

質問4 地域に焼却場があるのは好ましいことではないが、どこかに必要だということの中で仕方がない、どうせやるなら運営をしっかりとやっていただきたい。一点、ごみが減るのは好ましいが、減りすぎると安定的に運営ができない、その数字がうる覚えだが5万トンと聞いた記憶がある。通常時期の中でも5万トンを切っているということになると、今後の運営に関してどのようにしていくのか、例えば拡大区域という形を続けるのか、どのようにして安定的な運営を続けるのか。

回答4 報告の中で住民説明会の概要を説明したが、本来のニュータウン区域から搬入されるごみ量は、5万トンを切っている。安定的な工場の運営をしていくためには、5万4千トン以上が必要。八王子市の館清掃工場が平成34年度に稼働開始して、拡大区域として入っているごみが全部なくなってしまうと、多摩清掃工場に入るごみ量が4万6千トン程度にしかならない。そうなると、多摩清掃工場の維持ができないということになるので、現在の八王子市拡大区域の中でニュータウン区域に近い区域から収集効率も踏まえ概ね4千トン程度の家庭系可燃ごみが搬入できるようなエリアを八王子市と協議をしている。町田市からも4千トンの家庭系可燃ごみが搬入できるニュータウン区域に近い地域を選定するような形で協議を行っている。両市それぞれ4千トンずつ合わせて8千トンのごみ量を確保することによって5万4千トンのごみ量を確保していきたいという説明を2月7日と2月10日にご説明させていただいた。概ねの区域は説明会で資料をお見せして、説明させていただいたが、細かい町丁名など具体的な区域が決まると、ごみ量や搬入車両の台数が見えてくる。これらを今年の秋頃に説明会を開催させていただいて、お示ししたい。

また、出前等で自治会や町会さんにお邪魔させていただいて住民の皆さまにご説明させていただける機会を頂ければ、説明をさせていただきますので、ぜひよろしくをお願いします。

2 特別見学会の開催結果

普段の施設見学とは異なる現場の情報を盛り込んだ見学会を実施し、測定器室、クレーン操作室、焼却炉内や資源ごみの分別状況の見学、防護服の試着体験、放射線量測定体験等を行った。